

医師の戦争 犯罪を検証

17日、京大

戦後、日本・ドイツ
両国が行った医師・医
学者の戦争犯罪の実態
の検証や、医学教育な
どへの生かし方などに
ついて話し合う国際シ

ンポジウム「戦争と医
の倫理―ドイツと日本
の検証史の比較」が17
日午後3時、京都市左
京区の京都大学百周年
時計台記念館で開かれ
ます。

理の検証を進める会」
が主催。2010年に
ドイツの精神神経学会
がナチス時代の医学犯
罪と公式に謝罪し追悼
集会を開催したこと
や、日本の研究者が昨
年夏七三一部隊による
細菌戦を裏付ける資料
を発見したことをふま
えて開催するもの。

ドイツの医師で『恐
ろしい医師たち―ナチ
時代の医師の犯罪』な
どの著者フィル・バス
ティアン氏がドイツの
精神神経学会のとりく
みを、医学者で「15年
戦争と日本の医学医療
研究会」幹事長の刈田
啓一郎・元東北大学教
授が七三一部隊の新資

料などをそれぞれ話す
予定です。
なお、同シンポジウ
ムにあわせ同会作成の
パネル展示(126枚)
を16日から21日まで行
います。
問い合わせ先 ☎03
・33675・5121
(「戦争と医の倫理」の
検証を進める会)。

戦争と医の倫理問う

17日にシホ 日独の検証の歩み比較

この「戦争と医の倫理」の検証の実施を要請し、独自の歴史と国際シホが集められました。この活動は、11年暮、「戦争と医の倫理」の検証を進める

会が設立されました。

同会は、今回の企画を、石井四郎が31部隊長や多くの部隊員と関係があった京都大学で実現しようとして、日までに取り組んでまいりました。

戦後、日本とドイツの「強制収容所」に多くの医学者・医師に対し、屠殺・医学過酷や薬害に及ぼした。関係した多くの風土は、繰り返される医療のあり方を示しています。

300人以上の中国人など、300人以上の中国人などを人体実験の材料にして、殺害しました。関係した多くの部隊員と関係があった京都大学で実現しようとして、日までに取り組んでまいりました。

戦後、日本とドイツの「強制収容所」に多くの医学者・医師に対し、屠殺・医学過酷や薬害に及ぼした。関係した多くの風土は、繰り返される医療のあり方を示しています。

西山 勝夫

医学者の「戦争医学犯罪」は、人命を守るべき医師（連合軍総司令部）は、尋ねてしまいが、その研究結果を得るために戦争医学に及ぼした。関係した多くの風土は、繰り返される医療のあり方を示しています。

医学者の「戦争医学犯罪」は、人命を守るべき医師（連合軍総司令部）は、尋ねてしまいが、その研究結果を得るために戦争医学に及ぼした。関係した多くの風土は、繰り返される医療のあり方を示しています。

医学者の「戦争医学犯罪」は、人命を守るべき医師（連合軍総司令部）は、尋ねてしまいが、その研究結果を得るために戦争医学に及ぼした。関係した多くの風土は、繰り返される医療のあり方を示しています。

医学者の「戦争医学犯罪」は、人命を守るべき医師（連合軍総司令部）は、尋ねてしまいが、その研究結果を得るために戦争医学に及ぼした。関係した多くの風土は、繰り返される医療のあり方を示しています。

医学者の「戦争医学犯罪」は、人命を守るべき医師（連合軍総司令部）は、尋ねてしまいが、その研究結果を得るために戦争医学に及ぼした。関係した多くの風土は、繰り返される医療のあり方を示しています。

ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。

ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。

ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。

ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。

ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。ドイツの検証の歩みか、多々あると考えられます。

国際シホが「戦争と医の倫理」ドイツと日本の検証の比較」17日（土）午後3時開会。京都・京都大学百周年記念館 百周年記念ホール。パネリスト：精神科医のナイル・バスチアさん。刈田賢一郎元東北大教授。パネリスト：16日（金）21日（水）京都大学国際交流センター。連絡先「戦争と医の倫理」の検証を進める会03（375）5121

戦中の医療倫理を検証 左京

全国の医師や看護師、医学教授などで作る「戦争と医の倫理」の検証を進める会」が16日から「戦争と医の倫理展」を京都大国際交流ホール(左京区)で開く。同会は2009年に結成され、独自に史料や論文などの検証を続けてきた。

展示は5部構成。戦争中の医学者・医師が行ったとされる人体実験などの「残虐行為」をまとめているほか、歴史検証が日本より進んでいるというドイツの医学界の現状も取り上げる。

同会代表世話人の西山勝夫・滋賀医科大学名誉教授は、731部隊の隊長だった石井四郎軍医中將が京都帝国大(現・京大)出身であることに触れ、「展示を京都ですることには大きな意味がある。これからの医療の倫理を考えるために

も本来命を救うべき医師が命を奪っていた事実を知ってほしい」と話す。

21日まで。17日午後3時から、京都大百周年時計台記念館で、「ドイツ人医師らによるシンポジウム」ドイツと日本の検証史の比較」もある。いずれも無料。問い合わせは同会(03・3375・5121)へ。
(篠塚広大)



イベント掲載

HOME > 講座 > 国際シンポジウム「戦争と医の倫理～ドイツと日本の検証史の比較」

講座

開催日: 2012年11月17日(土)

国際シンポジウム「戦争と医の倫理～ドイツと日本の検証史の比較」

11月17日(土)15時～18時、京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール(京都市左京区吉田本町。市バス「京大正門前」下車すぐ。Pなし)TEL075・753・2285。*ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい

パネリスト=Till Bastian(医師、作家、平和活動家、郡会議員)、刈田啓史郎(医学者、15年戦争と日本の医学医療研究会幹事長、元東北大学教授)

座長=小島荘明(東京大学名誉教授)、川嶋みどり(日本赤十字看護大学名誉教授)

無料。

問い合わせTEL03・3375・5121/FAX03・3375・1862(「戦争と医の倫理」の検証を進める会)。

【関連イベント】

パネル展示「戦争と医の倫理～日本の医学者・医師の『15年戦争』への加担と責任」

9月14日(金)～10月8日(月・祝)9時半～16時半(月曜休、祝日の場合開館・翌休。入館16時まで)、立命館大学国際平和ミュージアム(京都市北区等持院北町56-1[立命館大学衣笠キャンパス]。市バス「立命館大学前」下車徒歩3分。Pなし)TEL075・465・8151。*ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

一般400円、高中生300円、小学生200円。

問い合わせTEL075・465・8151/FAX075・465・7899(立命館大学国際平和ミュージアム)。

*内容は変更される場合がありますので、詳細については主催者に直接お問い合わせください。

*チケット種別「シルバー」「ユース」の年齢指定は催しにより異なる場合があります。

*「学生」「ユース」「シルバー」「障がい者」等、割引には証明証提示が必要な場合があります。

戦争中の医師や医学者の非人道的行為や、戦後の日本とドイツにおける加害責任の検証の違いを考える「戦争と医の倫理」展が16日、京都市左京区の京都大時計台記念館で始まった。17日午後3時から同館で国際シンポジウムがある。

全国各地の医師や弁護士らでつくる「戦争と医の倫理の検証を進める会」が企画した。旧京都帝國大卒の石井四郎が率いた旧日本軍「731部隊」による人体実験と細菌兵器の被害を中心に、医学分野における戦時動

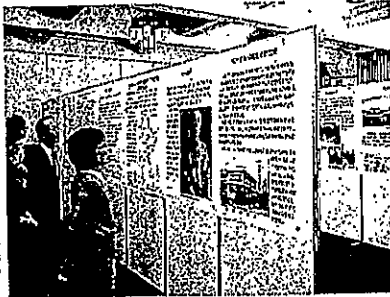
戦争と医の倫理問う 京大で企画展

員体制、加害を抵抗した医学者などを紹介している。

戦後に731部隊の医師らが米国に研究データを提供して免責され医学界で活躍した実態と、1980年代の旧西ドイツにおけるナチス時代の検証と謝罪について解説し、両国の対応を対比している。

シンポは、ナチス時代の医学犯罪の論文集を編集したドイツ人医師ティル・バステイアン氏の講演と討論がある。当日参加料は無料。展示は21日まで。

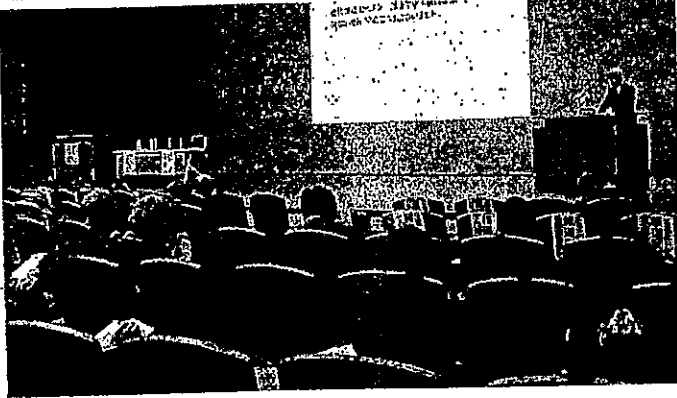
(松浦吉剛)



日本の医学者や医師が戦時下にした非人道的行為について解説するパネル展示(京都市左京区・京都大時計台記念館)

2012年11月18日(日曜日)

戦争医学犯罪 検証を



戦争と医の倫理を考えようと開かれたシンポジウム。17日、京都市

京都でシンポ 「医の倫理」考える

戦前の「731部隊」や「アウシュビッツ強制収容所」など医師や医学者の戦争犯罪を検証し、現在の医の倫理を考える国際シンポジウム「戦争と医の倫理」が17日、京都大学(京都市左京区)で行われた。戦争と「医の倫理」の検証を進める会が主催しました。パネリストとしてドイツのティル・バステイアン医師、医学者の刈田啓史郎氏が報告。バステイアン医師は、ナチス時代の医師が障害者施設で大量虐殺を行っていたことなどを告発しました。

刈田氏は、731部隊で生体実験などを行った医師・医学者が免責され、戦後、医学界の指導的地位に就いたことを指摘し、「日本の医学会は戦争加担や医学犯罪への反省や検

証もなく、タフを抱えて、医のモラルの低下をもたらした」と批判。

さらに、ドイツでも医学会の検証がすすまないなか、2010年にドイツ精神医学精神療学会が犠牲者への謝罪を表明したことなどを紹介し、日本医学会や医師会が戦争医学犯罪を検証することを

求めました。

小島在明・東京大学名誉教授、川嶋めぐり・日本赤十字看護大学名誉教授が座長をつとめました。

同会の西山勝夫代表世話人が開会あいさつしました。

21日まで同大学・国際交流ホールでパネル展を行っています。